

けやきコミュニティニュース

第118号 (通算142号)

2015年10月10日発行

けやきコミュニティ協議会



今年のニュースのテーマは・・・
「日常のつながりが地域を変える」
さてさて、
どうつながる？



けやき夏まつり

も く じ

2P.. 特集「日常のつながりが地域を変える」
さて、どうつながる？

3P.. けやき夏まつり報告

4P.. まちづくりフェスタ/まちづくり局

5P.. さて、あなたは どうつながる？
ジャンボリーでボランティア

6P.. 【お知らせ】地域フォーラム・文化企画・
コミセン親子広場 運営委員のつぶやき

特集 日常のつながりが地域を変える⇒さて、どうつながる？

★このところ、けやきコミセンの部屋の利用が少なくなったような気がするのはなぜ？★

8月に行われた「けやきの運営委員懇談会」で原因と対策を話し合いました。

原因：地域の中にグループ活動が少なくなったのでは？
 対策案：卓球台の購入はどうか。時間を決めて、夜には家族やお父さんたち等グループが活用すれば利用者の幅がひろがるのではないか。

原因：地域の活動団体が利用しやすくするために優先的に予約できるようにしてはどうか。
 対策案：部屋の予約開始を2か月前からにしたらどうか？公平性を考慮して検討が必要か

原因：コミセンの利用方法を知らない人が多いのではないか？
 対策案：もっと運営委員がけやきニュースや口コミでお知らせしよう。宣伝が大事！
 他地区からの転入者に、市役所で伝えてもらいたい。「コミセンは誰でも利用できます！21時半まで開館」

原因：エレベーターがないから。
 対策：エレベーターの設置を提案しています。

- * 窓口の配慮で年配の方など、お手伝いの声掛けなどをする(荷物・飲み物など)。
- * 窓口の声掛け・あいさつの重要さを改めて感じる。
- * 借りに来られた方へ「どうぞ、お使いください」の気持ち大切。
- * 利用者の気持ちや立場を尊重しよう。
- * 利用者の高齢化により自主グループの維持が難しくなってきたのではないか？
- * ネットの普及で仲間で集まりを持たなくなった。
- * 夜は家(自宅)で充分だと感じる人が増えた。などなど・・・

5月の「けやきまつり」や8月末の「けやき夏まつり」など、けやきコミセンのイベントには、毎年沢山の地域の方が家族やお友達と一緒に参加されています。しかしイベント以外の日常ではまだまだ利用されている方はそんなに多くないようです。もっと気軽にお休みの日や会社帰り、散歩の途中など寄って行きたくなるコミセンになれる様、けやきの運営委員も努力しています。どうぞ地域の皆さんもどんどん利用してください。けやきコミセンがもっと地域に愛される「ここであってよかった」と思われるコミセンになっていけるよう、ぜひご意見をお聞かせください。

* コミュニティルーム・子どもルーム・学習室は予約なしで利用できます

けやきのお部屋の使い方をご紹介

和室用の長テーブルと椅子が好評。「会議や食事会で使ったらなかなか雰囲気が変わって良かった！」

素敵な木のキッチン・おままごとセットがあるよ。もし卓球台が入ったら利用が増えるかな？

ピアノが常設されています。お芝居や音楽の練習するのも良し、健康体操や会議など。大型テレビでDVDが見られます。一番人気のお部屋です。

絵を描いたり工作ができます。「久々にミシンを使って何か作ってみたいわ〜。」ミシン貸出可

今は受験シーズンで沢山の方が利用されています。たまには環境を変えて勉強したい方にもおすすめです。(静かとはいえませんが・・・)

調理器具や食器がそろっています。2段式オープンでおいしいお料理

おしゃべりしたり、お弁当やおやつを食べたり、お茶したり・・・仲よくご自由にお使いください。

2階

1階

アイネ!



けやき夏まつり を開催しました！

8月23日(日)

楽しそうなたくさんの方々の笑顔があふれて開催することが出来ました。ありがとうございました。天気が不安で、一時雨が降りましたがすぐに止み、盆踊りも予定通り踊れました。

けやきコミセン夏まつり担当の運営委員が実行委員になり、春から企画準備を進め、他の運営委員・協力員は各セクションに分かれます。

大人も子どももたくさんの方が輪になって一緒に踊った盆踊り。事前に盆踊りの練習日を設けて踊りを知らない人もベテランの人も一緒に練習をしました。指導をしてくださっているのは地域の片桐先生。毎年指導をくださり、当日もどう踊るかを声かけをして下さるので誰もが踊りやすいのです。盆踊りの大太鼓をたたいてくれたのは武蔵野中央会青年部太鼓班の子どもたち。音に合わせて太鼓で盛り上げてくれました。大太鼓を貸して下さっているのは武蔵野四中。今年は四中の先生3人がドリンクと焼そばを手伝って下さいました。

焼きとりを焼いていたのは大野田小学校の先生方。校長先生をはじめ、毎回たくさんの方々の参加でお手伝い頂いて、祭りに来た小学生が普段とは違う先生の姿に大喜び。盆踊りの前のステージでは地域でがんばっているキッズフラダンス、ストリートダンス。今回はジャグリングもありました。焼だんごは北町5丁目町会の方たちが一手に引き受けて焼いて下さいます。町会から長机、椅子・提灯などお借りしています。団子は毎年おなじみの桜堤の「ふるさと」の美味しいお団子です。そして交通安全協会の人たちが制服を着て安全を見守って下さいました。忘れてはいけないお祭りになくてはならない設営。運営委員、協力員、地域の人、成蹊大学生でテント、櫓、かまど作り、提灯付け、電気の配線、長机や椅子の運びと力仕事から繊細なことまで協力してやりました。もっともっと関わって下さる人たちがいます。お祭りはたくさんの方々の関わりがあって出来上がります。

そんな中のお二人から感想を伺いました。

……皆さんも次は是非一緒にやりませんか？……



汗だくで焼きとりを焼く先生方

けやき夏まつりに初めて参加して

けやきコミセンには、普段は学習室の利用をさせて頂いています。やさしく迎えて、つかずはなれずな距離で見守って下さる暖かさを感じています。いつもしていただくことが多く、自分にも何かできることはないだろうか。人とのつながりを大切にしていきたい。そう思って窓口の方々にお聞きしたのが夏まつり参加のきっかけです。



今回は、ピザ係になって生地作りから始まって、具を乗せて1階の焼き担当の方々に渡すまでが役割でした。試食の時には「石釜のピザってなんておいしいだろう！」と自分も参加して作っただけあってとても感激しました。お祭りが始まって「行列ができてますよ」の声に促されるように、作っては焼き担当の方に渡すことを繰り返しあつという間に完売になった大人気のピザは、200枚売れたそうです。利用者としてだけでなく、周りの方と力を合わせてお祭りに参加できたのは初めてのことで、皆さんとひと時を過ごせてうれしかったです。また機会がありましたらぜひ！と思っております。〈J.T〉

おやじだってやれるんだ！

私、50代後半のごくありふれたオヤジが、けやきの活動に参加し始めて、7~8年ほどでしょうか。もっとも、参加しているとはいっても、せいぜい年に数回ある祭りで「焼きそば」担当をしているという程度のことですが……。

さて、とりあえず現役で一応人並みに働きつつ、けやきの活動を続けられた理由は、「上下関係抜きのフラットな間柄を保ちつつ、損得勘定抜きで身体を動かす」。これぞまさしくボランティア活動の神髄かもしれませんね。

ボランティアとして、私が具体的に活動している「焼きそば」作りは、不器用でも回数を積み重ねて、コツを飲み込んできました。「習うより慣れろ」昔の人は旨く言ったものです。しかしながら、我々オヤジ達のみ力だけでは、実現不可能なものです。そうです！実はイベント前に、300食分のキャベツを刻み、お肉にあらかじめ火を通し、特製ソースをいい塩梅に調合し、30食ごとに袋詰めしてくれる、女性の力があってこそなのです！！

現役サラリーマンのおやじから、こんな関わり方もあるんだと地域のおやじたちに伝えたい！！ 〈M.T〉

「まちづくりフェスタ」…とは

夏休みが始まったばかりの7月21日(水)の午後、まちづくり局主催「まちづくりフェスタ」が開催されました。今年の内容は、「デコパージュ」

という工作をしてから、白玉だんごでティータイム。幼稚園児から大人まで50名ほどが参加して下さり、大賑わいとなりました。



ペーパーナフキンを使って
ポーチにデコパージュしました！

3,4年前から、けやきあそび隊の代表として、月1回のまちづくり局会議に参加するようになった私は、このフェスタを「まちづくり局の文化祭」のようにとらえています。文化祭といえば、各チームがブースを出してお披露目するかと思いますが、そればかりでは横のつながりが薄くなりますし、内容もマンネリ化がちです。

そこで近年は、炭火さんま焼大会、流しそうめんなど、各チームの組織力を生かして、1つの企画に取り組んでいます。フェスタの本来の意義は、普段の各局の活動を知ってもらい、新しい仲間を募ることですが、もうメンバーを増やせないチームもあるので、別の意義も見出さなければなりません。毎年、このフェスタを機に、各チームの絆も深めつつ、小規模ながら一般の来場者の方にも楽しんでいただいています。元気なまちづくり局は、けやきコミセンの彩りの1つである…と信じて、来年もささやかながら楽しいフェスタを開催したいと思います。(k)

けやきまちづくり局

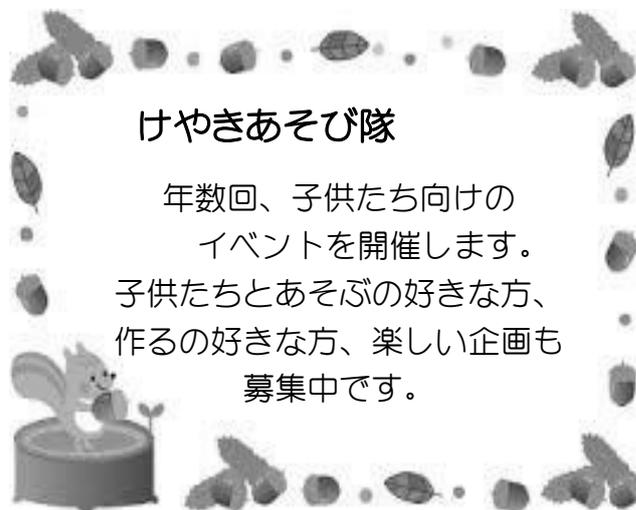
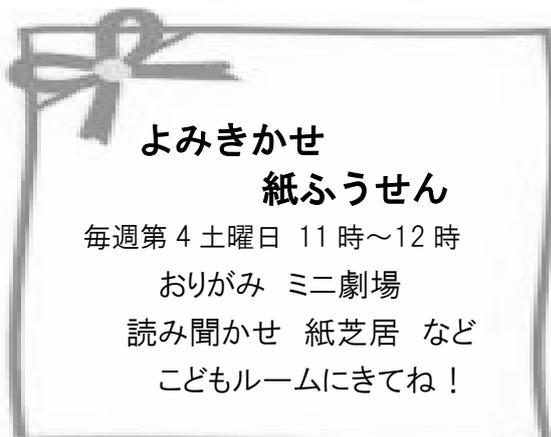


まちに仲間を増やそう、やりたいことができるまちにしよう、もっと地域のいろいろな人と出会いたい。いろいろな人が関わるから、いろいろな発想が生まれます。デジタルではないアナログのつながりも大事！まちづくり局はそんな願いを持っています。わくわくする楽しいこと始めましょう！

☆アートくらぶ・風と歩こう・ナイトウォーク・けやきガーデナーズ・からだほぐしとお食事の会・けやき塾・けやき茶社・ぱそこん倶楽部・囲碁のつどい・よみきかせ 紙ふうせん・けやきあそび隊 11 のチームが活動しています。

それぞれのイベントの詳細は、市報やホームページでご確認ください。

チーム紹介 その3



けやきコミセンは地域の皆さんのニーズにこたえる活動を目指していますが、大野田地域にはほかに地域のニーズを受けて活動している団体があります。

そのうちの一つ「むさしのジャンボリー」を紹介します。

市と青少協（武蔵野市青少年問題協議会地区委員会）の共催事業のジャンボリーでは、小学校4～6年生の希望者が地域の大人（指導員）・中高生のサブリーダーと共に「私立自然の村」で2泊3日のキャンプを通して、野外活動・自然体験をします。

「むさしのジャンボリー」も地域ボランティアの力なくして成り立たない地域のイベントのひとつです。大野田地区では今年も20名ほどのボランティアで実行委員会を4月に立ち上げ、7月の開催にむけ準備をしてきました。副実行委員として活躍のお二人にジャンボリーのボランティアを通じて感じたことを伺いました。



ジャンボリーから帰ってきた我が子を見て、少し頼もしくなると、多くの保護者が感じたと思います。実際、初日は危なっかしかった薪割りも、日に日に上達していきます。普段経験しないことにチャレンジすることで、子どもは成長します。そうした3日間の経験が自信となって表情に表れるのでしょうか。

これは、子どもたちが主体的に活動することによってこそ得られるもので、それを支えるのが指導員の見守る力です。大人の眼で見守ることで、子どもたちはチャレンジに集中できます。

子どもたちにとっては、普段接したことがない大人とのコミュニケーションによって得られるものも小さくないと感じます。指導員も同じで、日頃接することのない子どもや、地域の人と顔見知りになるいい機会となり、それは普段の生活に必ずプラスになるはずです。

子どもを見守ることができれば、指導員に特別なスキルはいりません。是非一緒に、現地で子どもたちの成長を見守りませんか。 塩澤 誠一郎

自分の子どもが4年生になってジャンボリーに参加できるというとき、お世話になるのだからお手伝い出来ることはしてみよう、と指導員で参加してみたのが関わりのきっかけでした。川上村の自然は素晴らしく、毎年参加してきています。

ジャンボリーと関連して大野田小学校校庭での野外料理にもお手伝い参加してきました。このイベントでは防災釜を使いますし、野外活動というジャンボリーの性格上、防災関連の事とは何かとリンクしてくることが多いようです。防災訓練などに参加することで、地域の防災設備等の知識も増え、いざという時のためになりそうです。

ジャンボリーをきっかけに様々な人とのつながりも増え、ジャンボリー以外のイベントにも参加することが増えました。普段何の気なしに過ごしていると、武蔵野市や地域というものを意識することも少ないですが、人とのつながり、様々なイベントを通して自分の生活する場所としての地域、武蔵野市というものが見えて来るように思います。 川本 聖爾

現地へ行くのはちょっとハードルが高い…という方、裏方を支える“準備”のボランティアもありますよ。けやきコミセンの運営委員のうち9名が今年の実行委員として関わりました。来年度もきっと多くの子供たちが参加を楽しみにしていることでしょう。地域の大人で支えるイベント、あなたも参加してみませんか？

恒例の「第44回 むさしのジャンボリー」無事終了しました

今年度は平日開催で指導員不足が懸念されましたが、新たに6人の保護者が指導員として参加して下さい、総勢188名（児童133名、指導員38名、サブリーダー17名）で出発しました。

2日目はハイキング。5、6年生コースでは出発早々腹痛を訴えた児童がいたり、4、6年生にも捻挫や鼻血の児童もいましたが、天気にも恵まれ多くの子供たちは川上村の大自然を満喫し、山歩きの締めくくりに川遊びを楽しんでキャビンに帰ってきました。山の天気は気まぐれで、夕方には雨が降り出し、予定していた星空の下のキャンプファイヤーに代わり屋根のある“みんなの広場”でキャンドルファイヤーを行いました。子供たちのパフォーマンスは迫力満点で、指導員も一緒になってみんなで楽しく歌ったり踊ったりしました。

最終日の天気もあまり良くなかったものの退村準備が整った班から川遊びに行きました。毎年のお楽しみのひとつのレタスの収穫は悪天候による成育不良のため行えませんでした。大野田小で行った終わりの会では、三年連続参加者の表彰式を行いました。大きな怪我もなく全員無事に帰って来ることができ、ジャンボリー実行委員一同ホッとしています。 ジャンボリー実行委員長 高橋 豊

